



ドーナツの穴まで食べたと四月馬鹿

花岡直樹

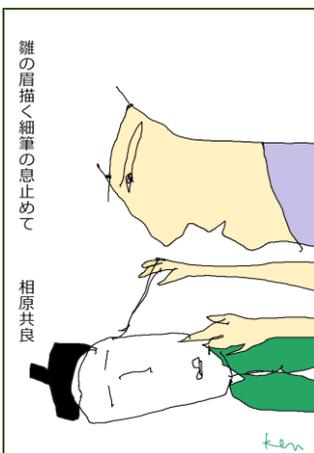
ドーナツの穴を食べるにはどうするか、一瞬考えさせられるところが可笑しい。ところで、ドーナツを食べずに穴だけを食べる方法はあるのかな？



歳時記のどこかにないか閏の日

赤瀬川至安

四年に一度とはいえ、閏日は二月と決まっているんだから、二月の季語になってもいい気がする。閏年に出版する歳時記には載せてもらいたいね。



雑の眉描く細筆の息止めて

相原共良

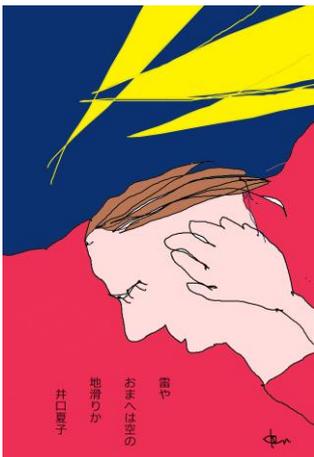
人間のお化粧でも「眉は顔の額縁」と言われ、顔の印象を大きく左右する。細心の注意を要するが、「細筆の息」として緊張感がより表現された。



館パンの臍春風にくすぐられ

田中やすあき

「館パンの臍」と聞くだけで何となく愉快的気分になる。それがくすぐられるのだから、ますます楽しい。自分の臍がくすぐったい感じがしてくる。



雷やおまへは空の地滑りか

井口夏子

「空の地滑り」がいいねえ。そうか、雷は空をうっかり滑ってしまったものだったのか。これまで誰も発想せず、俳句にしなかつた表現が光っている。



熟年は完熟なるやトマト食む

沖枇杷夫

完熟トマトを手にして、「俺は熟年だが果たしてこのトマトのように見事に熟しているか」と思った瞬間が句になった。老化ではなく熟したいね。